

報告タイトル(*日本語と英語両方ご記入ください)

インドにおける大規模言語モデルと開発経済学研究の進展

“Large Language Models and Advances in Development Economics on India”

氏名(所属)

後藤 潤(政策研究院大学)

GOTO Jun (National Graduate Institute for Policy Studies)

要旨(800字程度)

近年途上国では様々な行政・政府・司法関連のテキスト情報が開示されており、大規模言語モデルを用いた応用研究に注目が集まっている。インドも例外ではなく、様々な非構造型データを用いて、これまでの手法・データでは未開拓であった開発経済学的分野への応用が進んでいる。

本報告は三つの側面から大規模言語モデルを用いた開発経済学的研究のフロンティアを紹介する。

第一に、高等裁判所・最高裁判所の判例・判決文などの全テキストデータが開示されたことで、これまでブラックボックスになっていた「司法の独立性および説明責任を規定する要因は何か」という問いに対する様々な研究蓄積が進んでいる(たとえば Ash, et al. 2024 や Goto Forthcoming)。

第二に、国会議事録を用いた分析から、植民地からの独立期以降、政治的エリートの間で国家アイデンティティがどのように形成され、さらには近年急速に先鋭化している宗教的アイデンティティにもとづくナショナリズム(Hindutva など)へとどのようにつながったのかに関する理解が深まっている。

最後に、衛星画像データをこれまでの処理アルゴリズムとは異なり大規模言語モデルのアルゴリズムで処理することで、高精度な土地利用の形態および時系列的な土地・不動産への投資行動を検知することが可能となり、1970年代以降からの通時的な民間・政府の投資行動データの復元がはじまっている。

これらのフロンティアを踏まえて、今後どのような開発経済学的研究に注目が集まるのか、どのような応用研究が必要とされるのかについても議論する。